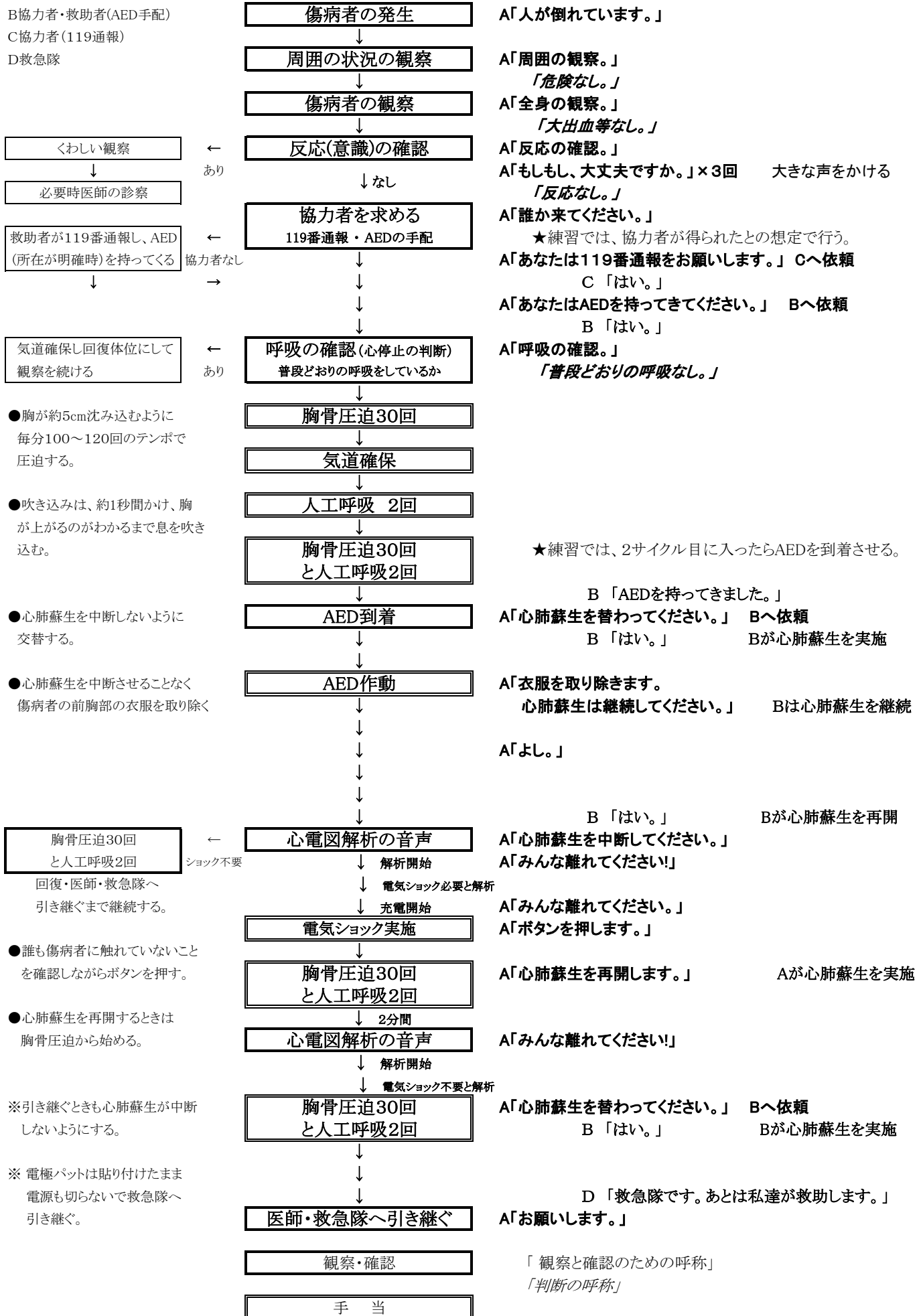


【役割分担】

- A救助者(発見者)
- B協力者・救助者(AED手配)
- C協力者(119通報)
- D救急隊

【 手 当 の 順 序 】

【 観 察 と 確 認 の た め の 呼 称 】



くわしい観察  
↓  
必要時医師の診察

救助者が119番通報し、AED(所在が明確時)を持ってくる

気道確保し回復体位にして観察を続ける

●胸が約5cm沈み込むように毎分100～120回のテンポで圧迫する。

●吹き込みは、約1秒間かけ、胸が上がるのがわかるまで息を吹き込む。

●心肺蘇生を中断しないように交替する。

●心肺蘇生を中断させることなく傷病者の前胸部の衣服を取り除く

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回  
回復・医師・救急隊へ引き継ぐまで継続する。

●誰も傷病者に触れていないことを確認しながらボタンを押す。

●心肺蘇生を再開するときは胸骨圧迫から始める。

※引き継ぐときも心肺蘇生が中断しないようにする。

※電極パッドは貼り付けたまま電源も切らないで救急隊へ引き継ぐ。

←あり

←協力者なし

←あり

←ショック不要

↓2分間

↓

いちじきゅうめいしよち ビーエルエス  
**一次救命処置 (BLS)**

しんぱいそせい(シーピーアール)とエイイーディー  
**— 心肺蘇生(CPR)とAED —**

**「人が倒れている」 近づくその前に**

- 周囲の安全を確認する(二次事故防止)
- 傷病者の状態を確認する(大出血の有無など)

**1 反応(意識)を確認する**

- 肩を叩いて、声をかける

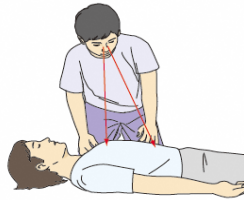


**2 協力者を求める**

- 119番通報とAEDの手配をお願いする

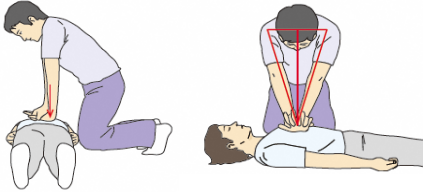
**3 呼吸を確認する**

- 10秒以上かけないで、胸とお腹をみて、普段どおりの呼吸があるかを確認する
- ※死戦期呼吸を普段どおりの呼吸と間違えないようにする
- ※判断に自信が持てないときは胸骨圧迫を開始する



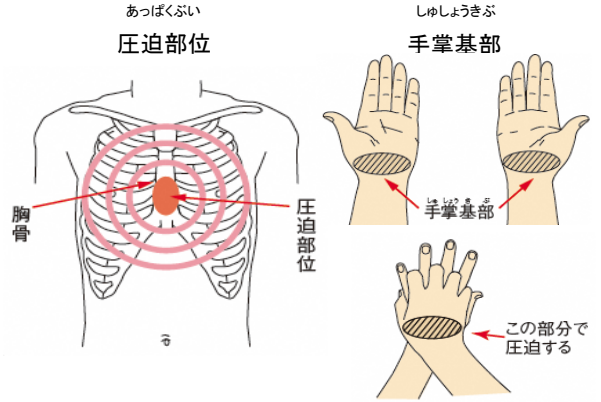
**4 胸骨圧迫を30回**

- 「胸骨の下半分※」を手掌基部で垂直に押し下げる
- ※目安は胸の真ん中
- 圧迫の深さは「約5cm」
- 圧迫の速さは「1分間あたり100~120回」
- 圧迫は「強く・速く・絶え間なく」を意識する



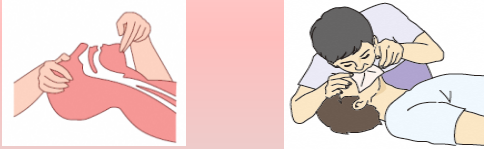
日本赤十字社では、一次救命処置の動画をホームページで公開しています。

- ホームページ  
<http://www.jrc.or.jp/study/>
- 右のQRコードから携帯電話でもご覧になれます。



**5 できれば、人工呼吸を2回**

- 気道を確保する(頭部を後ろに下げて、あご先を上げる)
- 鼻をつまんで口をおおい、胸が上がるのがわかるまで吹き込む
- 1回の吹き込みに約1秒かける
- 吹き込んだら、つまんだ手と口を離す



**6 メッセージに従ってAEDを使う**

※AEDのメッセージは、タイプにより少し違う場合がある

- ※ 胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返す
- ※ 人工呼吸ができない場合は、胸骨圧迫のみを継続する

